

日本庄延工業

滋賀県東近江市に本社や工場を構える「日本庄延工業」は、アルミニウムを原料とした加工用素材「アルミスラグ」をはじめ、「冷間圧延」と呼ばれる加工法を用いたアルミニウム薄板材などの「アルミコイル」、プレス機で強い圧力をかけて成形する「インパクト加工」を用いたアルミニウム加工品などを製造販売している。

平成28年8月に非鉄総合商社

近畿の活力企業

「川嶋」（本社・浜松市）の傘下となり、以降はスクラップの有効活用のため「素材リサイクル強化」に注力。同社の生産量全体に占めるリサイクル素材の割合「リサイクル率」は30%超となっている。これは川嶋がリサイクルのノウハウが潤沢という背景がある。

使用済み製品を素材に同じ製品をつくる「水平リサイクル」を積極的に進め、純アルミニウムに限らずアルミニウム合金のリサイクル素材も使用。今後はどの金属の素材が脱炭素に有効

アルミ加工通じ脱炭素を推進

日本庄延工業(株)
本社 滋賀県東近江市
平柳町514
代表者 磯部正信
URL <https://www.nichiatu.co.jp/>

日本庄延工業の本社・滋賀工場
＝滋賀県東近江市



かも踏まえて推進する方針だ。

同社の月間生産量は約500ト。リサイクル率は上昇を続けているが、磯部正信社長(61)は「リサイクルのみでなく品質維持も重視して「慎重に対応してきた」と話す。リサイクル材の利

用は有効資源の活用、CO₂削減などで利点が多い一方、細かな課題も多く、先進企業に教えを請うなどとして「一つずつクリア。顧客へは今後、ホームペー

用による脱炭素社会への取り組みなどをPRしたいという。

令和4年7月期の設備投資額は全体で約1億円。大型プレス機の製造ライン自動化、品質維持のための更新などを予定している。前期(3年7月期)は約8千万円を投じた排水処理装置や大型プレス機を導入した。

この排水処理装置。これまで排水は外部に出さずに処理してきたが、処理装置導入により環境基準を満たして外部排出が可能になった。これにより経費がかかるというネックも解消。大型プレス機の近くに装置を導入し、昨年9月から排出を開始している。

同社製品は自動車関連が半分以上。一部自動車メーカーは半導体不足などにより3年秋時点で4割減産していたが、同社の3年8、9月の販売は予想以上に堅調に推移していた。4年7月期の業績予想は、売上高33億円、営業利益、経常利益はともに1億5千万円以上。生産量は消火器用容器の伸びを予想し、前期比400ト増の6500トを見込んでいる。



東京商工リサーチ
滋賀支店
夏原裕輔